

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670200033
法人名	社会福祉法人 緑樹会
事業所名	グループホーム安樹
所在地	徳島県鳴門市大麻町松字東山田57-10 (電話) 088-689-3788

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 7月 30日

## 【情報提供票より】(平成19年 7月 5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	13 人
常勤	7 人
非常勤	6 人
常勤換算	5 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 階建ての 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	ユニット1 9,000円・ユニット2 15,000円	その他の経費(月額)	なし	
敷 金	有( ) 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1月当たり 40,000円				

### (4) 利用者の概要(7月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 ユニット1 88歳・ユニット2 84.7歳	最低	73 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	津保整形外科
---------	--------

徳島県 グループホーム安樹 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「地域に開かれた施設」を法人の理念とし、大麻山の山麓に位置する風光明媚な所に建てられており、静かな恵まれた環境にある。同じ法人の医療機関が同じ敷地内にあり、医療面での安心にもつながっている。職員は利用者の意思を尊重し、出来る限り意向に添うような支援を心がけている。食事作りには力を入れており、食材の買出し、調理、配膳、後始末と利用者それぞれの得意分野で活動してもらいながら職員と一緒にやっており、利用者の生きがいの一つになっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>法人としての理念はあるが、グループホームとして独自の理念が作成されていなかった。グループホーム独自の理念として「1.利用者様に自由な時間を提供する。2. 良質な環境を整える。3. 一日一笑、毎日笑顔の絶えない時間を提供する。」と平成18年度末に決めて事務室に掲示されているが、全職員が共有するまでにはいたっていない。また、緊急時の対応も母体に頼らず独自の研修を実施されるよう今後の取り組みを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価項目について職員間で話し合い、作成されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヵ月に1回実施されている。会議ではグループホームでの取り組み状況等を報告し理解を深めてもらっている。その時に出席された意見は尊重し、検討を加えながらサービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>本人、家族からの苦情に対しては素早く対応されている。年2回の家族会や、家族が来られた時などに、いつでも意見を言ってもらえるように働きかけ、話しやすい雰囲気作りを心がけている。家族には毎月1回担当職員が手書きの状況報告書を、年2回法人発行の「おおあき便り」を送っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の方たちとは散歩での触れ合いを大切にし、挨拶、会話を心がけている。地元の祭り、小学校の運動会等には参加し、敬老の日には地元小学校からの訪問もある。運営推進会議を通し交流も深まり、緊急時の協力依頼も出来ている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人として「地域に開かれた施設」を共通理念としている。グループホーム独自の理念は平成18年度末に「1・利用者様に自由を提供する。2・良質な環境を整える。3・一日一笑、毎日笑顔の絶えない時間を提供する。」と設定され、事務室に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人としての理念は共有され、理念に向けての実践に取り組まれているが、グループホーム独自の理念について、全職員で話し合う機会がほとんど無く、共有出来るまでに至っていない。	○	日々の話し合い等の中で、理念を共有し実践に向けて、今後取り組んで行きたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として自治会、老人会、行事等地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近隣の方々とは散歩等でのふれあい時に挨拶、会話を心がけている。地域の祭り、地元小学校の運動会にも参加し、小学校からの訪問もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の内容を基に職員間で話し合い、グループホーム独自の理念を作成している。また、睡眠チェック表の作成等改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でグループホームの取り組み状況を報告し、出された意見は検討し前向きに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員を月2回受け入れている。年2回は市介護保険課の職員も交えての報告会がされている。市主催の認知症についての講演会には、家族の方にも連絡し、多数参加されていた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回は担当者から家族に手書きの状況報告書が送られている。また、年2回法人で発行する「おおあさ便り」も送られている。	○	担当職員が交代された時には、新しい担当者を家族にも伝えグループホームと家族との連携がスムーズに行くよう図られたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議及び家族会で意見を聞いている。苦情箱も設置され苦情窓口の掲示もなされているが、受付の曜日と時間が決められておりいつでも相談できる体制にはなっていない。	○	日曜日に家族の面会も考えられるので、いつでも相談出来る体制作りを検討されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族へのダメージを最小限に抑えるよう考慮はしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は毎月1回全職員が受講出来るように同じ内容で3回実施し、いずれかで必ず受講するよう計画している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修や県外での現場研修を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	早くグループホームに馴染めるよう家族と相談し、時には外泊したりしながら安心感を持たれるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜の切り方、味付け等食事作りはもとより家事全般に利用者からのアドバイスを受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には在宅での生活状況、生活歴を詳しく聞いている。入居されてからも家族との連絡を密にし、利用者の意向に添った支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を反映した介護計画が立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年毎の介護計画の見直しがされている。また、変化が生じた時には状況に応じた介護計画の見直しもされている。	○	介護計画の見直しについては、半年毎ではなく3ヶ月に1回の見直しができるように今後取組まれたたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の意思を尊重し、外出支援、受診支援等を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは緊密な関係にあり、いつでも診ていただき助言を受ける関係作りが出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の意向を踏まえて医療関係機関も含めて話し合っている。職員全員で方針の共有は出来ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報、プライバシー確保についての研修を行っている。利用者に対する職員の対応は穏やかでプライドを大切にしたりさり気ない支援がされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、利用者がゆったりと思いいに過ごせるよう見守りを重視した支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週4回利用者と食材の買出しに行っている。食事の支度は毎食利用者と一緒に行い職員も同じ食卓を囲んで楽しみながら支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせた入浴支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出や散歩を希望する方には付き添い支援している。また、利用者の趣味や、興味のあるものの把握に努め日々の生活がマンネリにならないよう働きかけをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しは職員と利用者2～3人ずつが交代で行っている。散歩や食事会等に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来るだけ鍵をかけない支援をしている。外出しそうな様子が見られたときには声掛けし、場合によっては付き添って散歩に出たりしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年間を通じて行っている。連絡網も作られている。地域の人たちには運営推進会議を通じて協力依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の助言を得ながら献立を立てている。食事摂取量、水分摂取量の把握及び記録も出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時計、カレンダーは見やすい位置にあり、壁には利用者の写真や作品が飾られている。それぞれにくつろげる空間作りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、思い出の物、使い慣れた物が持ち込まれ、その人らしい空間づくりがされている。		